

令和2年度第1回古賀市文化財保護審議会 会議録

開催日時 令和2年10月9日(金) 14時から15時30分まで

開催場所 リーパスプラザこが交流館103洋室

出席委員 森弘子会長 桑田和明副会長 今橋省三委員 本田光子委員 伊崎俊秋委員

出席者 長谷川清孝教育長 青谷昇教育部長

事務局：柴田博樹文化課長 杉村幸一歴史資料館長 井英明文化振興・文化財係長
岩橋由季主任主事 大江道子主事

傍聴者 なし

1. 開会の言葉
2. 教育長あいさつ
3. 委員任命、自己紹介
4. 会長、副会長、議事録署名委員選出
5. 会長あいさつ
6. 議事

森会長 まず、古賀市指定文化財に関する調査審議ということで、案件として五所八幡宮の大般若波羅蜜多経があがっている。この件については、昨年度からの継続審議だが、新しい委員も入られたということで、新しい視点からまたご調査いただき、審議を継続して参りたいという意向である。では、事務局からご説明願う。

井係長 まず、伊崎委員からいただいた資料(考古学雑誌第16巻第10号)があるため配布させていただく。

(会議資料1～5頁に沿って「6.(1)古賀市指定文化財に関する調査審議 案件：五所八幡宮の大般若波羅蜜多経」について説明。)

森会長 ありがとうございます。では、委員の皆さまには議案書が事前に渡っているため、初めての委員もこれをお読みいただいていると思う。また、資料(大般若波羅蜜多経・原本)については、従前からの委員は昨年度に拝見しているので、新しい委員の皆さまにも見ていただいたほうがよいかと。

井係長 見ていただけるようにしております。もう一つ付け加えると、この資料は、五所八幡宮からお借りしているが、今後は、毎年借用の手続きを行い、うちの方でずっと保管していくという話をさせていただいている。一応、指定するということなので、正直な話、この資料は一年前にもお借りしたのだが、一年前に私が梱包したままの状態です。今回戻ってきており、宮司さんはあまり関心がない様子だった。しかし、今回お借りした時に、今後うちの方で保管する形にならないかという話をさせていただいたら、重要なものなのだという意識が芽生えてきたようで、これは修復したらどのくらいの費用がかかるか、という話も出ている。一応、地元とのやりとりはそういう風に進んでいる。どうぞ自由に資料をご覧ください。

委員一同 (中央机上の資料を熟覧)

井係長 右側から巻の番号の若いものから置いております。

本田委員 この箱については。

井係長 多分、返還の時にこちらで作って持っていかれたのではないかと。

伊崎委員 昭和34年の時に。

井係長 はい。こちらに古い写真があるのだが、おそらく元の箱がこの写真に写っているもので、現在のものとは全く違う形をしている。

本田委員 昭和34年に箱を新調して。

井係長 多分そうではないかと考えられる。

森会長 では、皆さんに資料を見ていただいたが、ご意見伺いたいと思う。

伊崎委員 会議資料5頁の3)「慈眼庵に残されたとされているが今不在の經典及びその奥書等(計4冊)」とあるが、この文章はどこから取ってこられたのか。

井係長 それは元々「青柳村誌」に書かれていたもので、一番古くは「福岡懸神社誌」にこれだけの巻があると書かれていた。そのうち5冊が五所八幡宮に戻されたというところで、元々作った時の資料としては、7冊は嬉野市にとり置かれているだろうということで記載したものになる。今回現地調査させていただいて、分類的には1)、2)、3)、4)に分けられるかと。4)にしたのは元から青柳村誌の段階で、表紙のみ現存とあったので、これはどうなのかな、と考えていた。

伊崎委員 青柳村誌ができたのはいつか。その時に嬉野に行って書かれたということになるのか。

井係長 福岡懸神社誌と青柳村誌に記載されているのはほとんど重複する。細かく見ると、この前棟札の調査の時にわかったのだが、どちらかの方が記述に間違いが多いというのが判明した。原本は福岡懸神社誌の方だと思うが、青柳村誌の方が新しい記載が多い。

伊崎委員 神社誌も成立したのは昭和18年ですよ。発表されたのが大正15年ということなので、神社誌を書く段階でも嬉野市に行って調べて書いたということになるのか。

井係長 この辺の経緯はわからないのだが、前回の五所八幡宮がお持ちになっている資料を一旦お借りして見させていただいたら、神社誌が求めたであろう資料の作成要領のようなものが出てきた。こういうことで調査を始めるのでこのような様式で出してほしいというようなもので、それに応じて作成したと思われるが、その作成した内容は出てこなかった。ただ、先ほど見ていただいた写真のように写真を撮っている時期があるので、どこかの段階で現地での資料調査をされているかと思われる。

森会長 他に質問あるいはご意見等ございますか。

井係長 今見ていただいている内容で色々のご意見が出ていたが、そういったことを踏まえて調査していただいて、なんとかこの慈眼庵のものが次回までに出てくればよいと思うが、もし不明の場合はどうされるか。

井係長 一応、今ある5冊で指定はさせていただこうかと思っている。将来的に出てきた場合はどうするかということは置いておいて、今の段階で会議資料の3. 指定の理由(3~5頁)に書いているように、筆者は南岩と同じであろうという風に考えさせていただき、元々言われていた600巻を600人で書いたというのは修正させていただこうかと考えている。前々回に桑田先生に教えていただいた買得施入の可能性もあるので、本来的に600巻書いたのかどうかはわからないが、納める過程で欠巻は買得で施入しているものもあったかもしれないという。桑田先生、これまで見られてきた感じでその辺りはいかがでしょうか。

桑田副会長 合っているかどうかわからないが、福津市奴山の縫殿宮の大般若波羅蜜多經は版本と写本から成っているし、写本は出雲国美保大明神に奉納されていたものなので、当然そういったものがあってもいいのではないかと。

森会長 では、今のご意見を踏まえてもう一度指定理由を整理して、次回の会議で指定に持っていきたいというご意向ですよ。

井係長 はい。

森会長 皆様方、それで如何か。

桑田副会長 良いと思う。新しくまた調査に行くという訳ではないので、慈眼庵にあるものは行方不明ということを確認してあるので。

井係長 万が一、庵を大掃除等した時に出てきたという場合は、また現地にて見させていただこうと

- は思っているが。
- 本田委員 今の状態だと、なるべく早く指定をしたほうがいいのではないかと思う。市民にどのような形であっても還元するとしたら、まず指定をして活用できる形に持っていく。それは今年度できる内容かと思う。
- 森会長 伊崎委員は如何か。
- 伊崎委員 同じです。
- 森会長 それではこのような内容なので、次回、もう少し整理をして出していただければと思う。よろしくをお願いします。
- 井係長 ありがとうございます。
- 桑田副会長 多分、その時に会議資料1頁の「大般若波羅蜜多經の調査について」のところをまた出されるかと思うが、用語について少し申し上げてよいか。
- 井係長 はい。
- 桑田副会長 まず、本文4行目の「北朝」、これはもちろん南北朝時代の北朝として使われているかと思うが、言葉の使い方に少し違和感がある。他の皆さんの考え方もあるかと思うが。それから、7行目で「立花道雪」という書かれ方をしているが、さらに下のところでは「戸次鑑連」と使われている。立花道雪という言い方については、周りから立花という言われ方はしていたが、鑑連は立花姓をおそらく使っていないと思うので、その辺のところはひとつあるのではないかと思う。
- それから、その下のところに「戸次鑑連（立花道雪）奉納社殿棟札」（糟屋立花城主）と書かれてあるが、これが城主ではなく、大友氏から城を預けられているので城督ということになるのではないかと思う。
- それから、「大内義興奉納宝殿棟札」とあるが、ここもこのような言い方が適切なのか、資料名を付けるときに、宝殿棟札という形で出した方がいいのかがあると思う。大内義興は確かに周防国守護であるが、むしろ筑前国守護でもあるので、周防と書くのであれば筑前国守護という風に書く方がいいのではないかと思う。
- すみません、合っているかわからないが、自分の意見として述べさせていただいた。
- 井係長 ありがとうございます。
- 今橋委員 文字に関して言うと、1頁の一番下のところ「和同経」の「同」はこういった書き方をするとと思うが、年号としては正式に金偏の「和銅」としておいた方がよいのではないかと。
- 森会長 他に意見等あれば発言願う。
- 桑田副会長 先ほど、この保存のことで言われていたが、棟札について、それが当時のものなのか写しなのか疑問に思うところはあるが、そちらも一緒に預かってきているか。それとも向こうにお返ししているか。
- 井係長 向こうにお返ししている。
- 桑田副会長 できれば、棟札の資料としては年号が書いてあるものの中では古いものなので、一緒に預かせてもらってもいいのかなと思う。
- 井係長 その辺りは検討させていただく。
- 森会長 他にございませんか。では、様々なご指摘・ご意見を頂戴したので、指定へ向けて文章を整えられて、次回指定となるよう、どうぞよろしく願いいたします。
- では次の7. 報告事項(1) 令和2年度文化財関係事業について説明願う。

7. 報告事項

- 岩橋 (会議資料7~8頁に沿って7.(1)①船原古墳調査・活用事業について説明。また、船原古墳1号土坑出土状況3次元計測アプリ、二連三葉文心葉形杏葉の復元CG画像を用いて最新の調査成果について報告。)

森会長 ありがとうございます。大変良いものを見せていただいたが、何かご質問や保存についてのご意見等願う。

本田委員 3DやCG等、最新の技術を非常にうまく使われていることが素晴らしい。もう一つ、一般の市民への還元や活用するためには、実際のものではなく学問的な調査結果である最新技術を使ったもので、これが推定復元だと伝えた方がより理解を深められるのではないかと思う。そのためには出土品というのはすごく適した文化財。技術もこれから進歩していくので、実際の出土品に関しては、なるべく現段階の技術で市民に今の状態を伝えるというのが今後の保存につながると思う。関心を持たないと保存というのは思いもよらないので。きれいですもんね、やっぱり。こういったものは大いに活用した方がよいかと思う。

森会長 ありがとうございます。今度の展覧会の時には見せられるのか。

岩橋 はい。来月14日から12月20日まで船原古墳展というものを実施するので、そちらにて展示する。

森会長 それでは、次は7. (1) ②開発に伴う受託調査について説明願う。

井係長 (会議資料9~10頁に沿って7. (1) ②開発に伴う受託調査について説明)

森会長 ありがとうございます。この件についてご質問等あれば発言願う。

伊崎委員 鹿部播磨古墳の調査原因は何か。

井係長 こちらは古賀市の工場団地内にあり、まだ残丘がいくつかあるがそのうちの一つで、工場用地としての開発計画となっている。

森会長 それでは、次は7. (1) ③福岡県指定文化財「阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑」の保存修理について説明願う。

大江 (会議資料11~13頁に沿って7. (1) ③福岡県指定文化財「阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑」の保存修理について説明)

森会長 ありがとうございます。この件についてご質問等あれば発言願う。

本田委員 実は私、この朝日新聞文化財団の審議会の委員をしているのだが、今回資料を送って頂いて開けてみてびっくりした。たくさんある中の一件なので、中立的な立場で一票を投じたということ思い出した。冒頭でも申し上げた通り、地域が文化財を守りたいというのが申請書を見たらすぐにわかる。申請者がどういう体制で何をどういう風に行っているのかということと、おそらくどの委員の方たちも見ている。その中で、私自身は一票入れたことを記憶しないまま来ていたのだが、今、ご報告を伺って安心した。ぜひ続けていただけたらと思う。

森会長 なかなかこの保存処理についても頭を悩ませられたところだったが、ちゃんとできてよかったと思う。着々と様々な分野に努力をなさっていることはいいことだと思う。他にご質問等がなければ、報告事項(2)令和2年度歴史資料館事業についてご説明願う。

杉村館長 (会議資料15頁に沿って7. (2) 令和2年度歴史資料館事業について説明)

森会長 ありがとうございます。コロナのことで館の運営もままならないことが多かったと思う。大変ご苦心の末、ようやく開館となって、このようにたくさんの事業が目白押しで並んでおり、前半のものも後半に入ってきたのではないかという風に拝察する。このような事業を行うにあたって、コロナ対策として実際来られる方の制限等はあるか。

杉村館長 例えば明日の講演会については、最大300人入れるところを、最大85人と人数を制限して、なおかつ名簿をきちんと作って、もちろん、検温や手の消毒もして実施する。

森会長 せっかくの話を皆さんに聞いていただけないのは残念だが、やむを得ない。それでもこのような状況下で開催することに意義があると思うので、ぜひ頑張って頂きたいと思う。他の皆さまからも館の運営や事業についてご意見あれば願う。

伊崎委員 11月8日までの企画展「戦争とくらし」について実資料展示があるが、これはこの資料館に寄贈されているものがメインになるか。

杉村館長 はい。資料館に寄贈いただいたものも、市内からお借りしたのも若干ある。加えて「旧青柳村役場文書」というものがあり、旧青柳村が相当な量の文書を残してくれているので、その中の兵時資料を使って企画を考えてやっている。お時間があれば、審議会後に少し観ていただけたらと思う。

伊崎委員 ありがとうございます。

森会長 それでは、議事と報告事項を終えたので、事務局にお返りする。

8. その他

9. 閉会の言葉